

至仏山-越後駒ヶ岳縦走報告

2010 年 5 月 1 日(土)ー5 日(水)

M4 只左一也

0 日目：上野駅→(JR鈍行)→ 水上駅(駅で仮眠)

1 日目：水上駅→(バス)→湯ノ小屋 →
ホタル池付近(幕営：C1)

2 日目：C1→笠ヶ岳→至仏山→岳ヶ倉山→スス
ヶ峰→白沢山手前のコル(幕営：C2)

3 日目：C2→平ヶ岳→剣ヶ倉山→滝ヶ倉山
→にせ藤原山→藤原山→大水上山→丹後山→避
難小屋(小屋泊)

4 日目：避難小屋→大水上山→兎岳→
→中ノ岳→越後駒ヶ岳→駒ノ小屋(小屋泊)

5 日目：駒ノ小屋→小倉山→駒の湯温泉→
大湯温泉→(バス)→小出駅 →(JR鈍行)→新宿駅

5 日目 (5 月 5 日(水))

起床	03:00	
駒ノ小屋		05:30 発
小倉山	06:30 着	7:00 発
小倉尾根分岐	11:40 着	12:00 発
引き返し地点	07:30 着/発	
小倉尾根分岐	08:10 着/発	
駒の湯温泉	10:20 着	11:00 発
栃尾又温泉	11:50 着	12:00 発
大湯温泉	12:20 着	12:50 発
小出駅	13:20 着	14:22 発
新宿駅	19:03 着	

(歩行時間：約 4 時間)

最終日。この日は下りだけなので気楽である。今年
は雪が多いので、標高のかなり低いところまで雪が残
っていて、下りは歩きやすいだろう、と楽観的な気分
だった。

3 時に起床。食事を済ませ、支度をして 5 時半に出
発。今日も、雲が多いものの天気は好い。

正面に毛猛山塊を見ながら気持ちのよい尾根を小
倉山まで下る。相当雪が残っていて、狭い尾根のはず
だが雪庇のため幅の広い雪尾根になっている。雪庇は
安定しているので歩きやすかった。春の霞の中に浮か
ぶ周囲の山々の景色がいい。

尾根は毛猛山塊までつながっているが、小倉山から
北に分かれる小倉尾根を下る。雪で歩きやすい尾根を
期待していたが、傾斜がきついために分厚い残雪が割
れてクレバスだらけ。雪が緩んで、腿まで、時には腰
まで潜ってしまう。ときどき藪こぎをする羽目になる。
さらに傾斜がきつくなって雪の上は歩きにくいので、
右手の雪を避けて左側の藪の中を下っていく。カタク
リとイワウチワの花がたくさん咲いている。

さらに傾斜がきつくなり、枝をつかみながら下って
いくと、藪が濃くなっていく。なんだか様子が変わる。
この尾根は途中で分岐するはずで、右の尾根を下
らないといけいないのだが、かなり下っているのに分岐
にならないことにより気づいた。顔を上げて周囲
を見回すと、右手に尾根が平行して走っている。分岐
を既に過ぎて、間違えて左の尾根を下ってきてしまっ
たようである。振り返ると、右の尾根がだいぶ上のほ
うで今歩いている尾根にぶつかっている。

仕方なく藪道を引き返す。傾斜がきつく、かなりつ
らいのぼりとなる。足元に咲いている花を踏まないよ
うに、尾根を登り返し、分岐点まで戻る。下ってきた
ときは、大きな雪庇を避けて左の藪を下るのに夢中にな
っていたので、分岐に気づかなかったようである。

本来の登山道である右の尾根は傾斜がゆるくて大
変歩きやすい。雪は豊富に残っているが、夏道がむき
出しになっているところが多く、アイゼンをはずして
歩く。高度が下がると、新緑のたいへん美しいブナ林
となる。ついつい立ち止まって景色を眺めてしまう。
周囲の新緑と、右手に見える毛猛の雪山がコントラス
トをなしていてすばらしい。

どんどん高度を下げていくが、雪が少なくなる。
途中で、登ってくる単独の 60 歳くらいの男性とすれ

て違う。地元の人だそうで、人が少ない連休後半を狙ってきたとのことである。越後駒ヶ岳には頻繁に上りに来るそうだが、今年はかなり雪が多いと言っていた。

新緑の中をさらに下っていく。標高 600m ほどになってもたくさん雪が残っている。やがて、駒の湯の建物が眼下に見えてきた。橋を渡り、林道に出た。10 時 20 分、駒の湯に無事到着。駒の湯の駐車場には何台か車が止まっていた。

これでもう危険なところはないので、ほっとした。しかし、バス停までまだかなり歩かないといけない。ここからはアスファルトの車道になるので、底の硬い登山靴を脱ぎ、ジョギングシューズに履き替える。

車道を行くと歩いていると、頻繁に車に追い抜かれる。標高は 400m しかないが、車道の脇には、まだ雪が結構残っていた。

1 時間ほどで、栃尾又温泉の入り口まで来た。温泉に入ろうと思って、温泉街の方へ向かう。10 分ほどで、鄙びた栃尾又温泉に到着。日帰りで入浴させてもらおうと、温泉宿で聞いてみたら、栃尾又温泉では数年前から全ての施設で日帰り入浴をやめたとのこと、がっかり。疲れがどっと出てしまった。仕方がないので、ひとつ下流の大湯温泉に向かう。急に荷物が重くなったような気がして、足取りも重くなる。20 分ほど歩いたところで、すれ違った地元のおばあさんに、日帰りで入れるいい温泉はないか聞いてみたら、親切に教えてくれた。

共同浴場に入るチケットを向いの旅館で売っているとおばあさんから教わったので、その旅館で聞いてみると、本当は大湯地区の旅館の宿泊客でないと入れないのだが、「うちに泊まったことにしてあげるから」と、チケットを 300 円で売ってくれた。昔は日帰り入浴もやっていたそうなのだが、何年か前に日帰り客が温泉を汚したりいたずらしたりすることが続いたようで、それ以来、日帰り入浴を止めたらしい。栃尾又温泉も、きっと同じ理由で日帰り入浴を止めたのだろう。

旅館の女将さんの親切のおかげで温泉に入ることができたが、バスの時間が近いので、体を洗ってお湯にざぶっとつかるといふ、もったいない入り方をして、大汗をかきながらバス停に向かった。

バスの乗客はほとんどいなかった。30 分ほどバスに揺られ、小出駅の手前で魚野川にかかる橋を渡る。こ

こから眺める越後三山はすばらしかった。

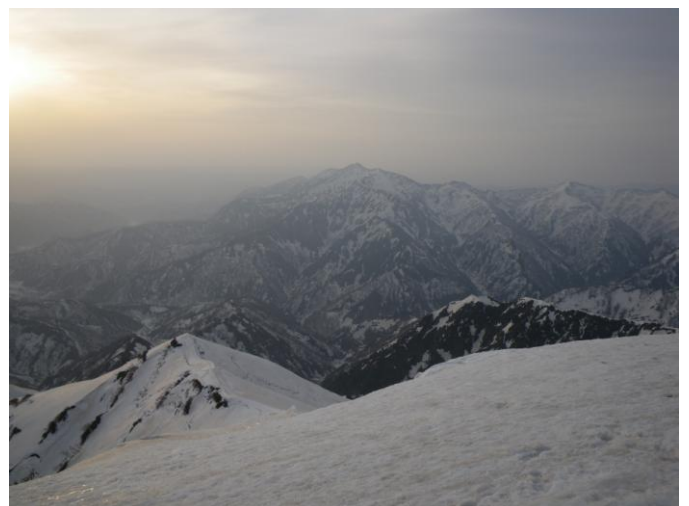
小出駅から鈍行を乗り継いで東京に戻った。



5 時半、駒ノ小屋を出発。後は越後駒ヶ岳。



この尾根を下る。左で折れ曲がっているところの小ピークが小倉山。



荒沢岳



南の眺め。



駒ヶ岳を振り返る。



少し下ると中ノ岳が姿を現した。





小倉山から越後駒ヶ岳を振り返る。



この尾根をたどると、奥只見湖の方に出ることができる。



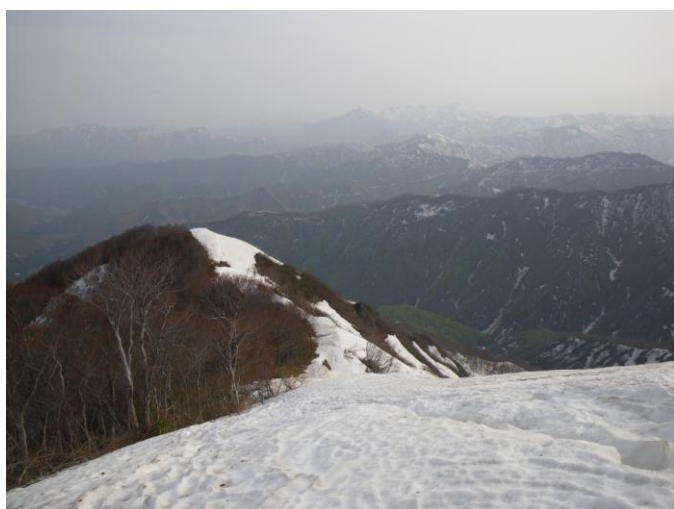
南の眺め。左端が荒沢岳。



私は小倉山から小倉尾根を北へ下る。



荒沢岳



遠くの山は、右が毛猛山(1517m)、左端が守門岳(1537m)。



イワウチワ



マンサクの花。



間違えて枝尾根を下ってしまった。もう一つ向こうに見える尾根が下るはずの尾根。ここで引き返す。



急坂を登り返す。



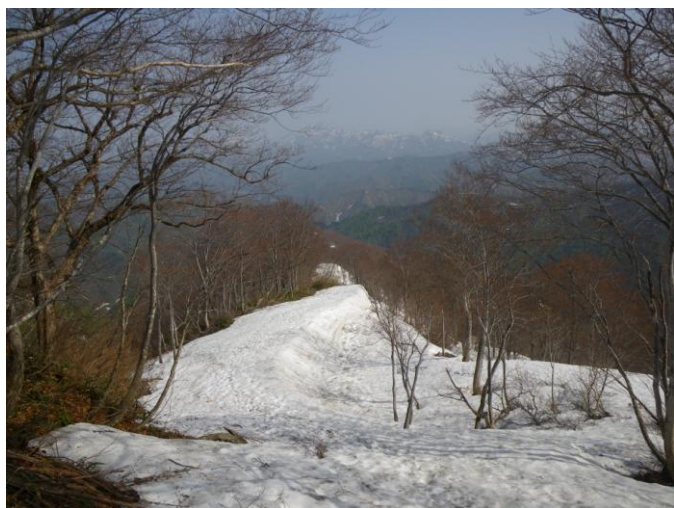
正しい尾根を下る。



麓の方は新緑。遠くは毛猛山。



このあたりが分岐点。

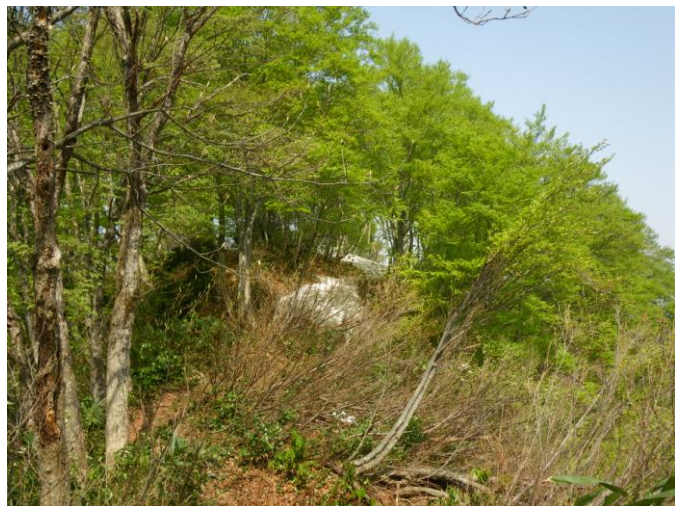
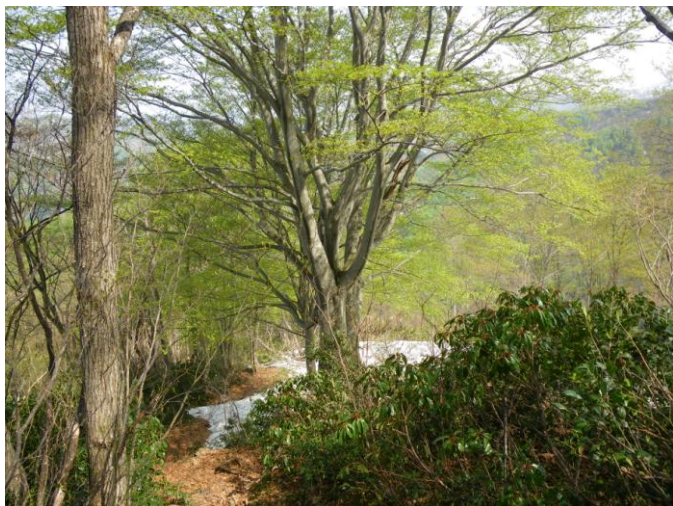


歩きやすいなだらかな尾根。このあたりのブナはまだ芽吹いたばかり。

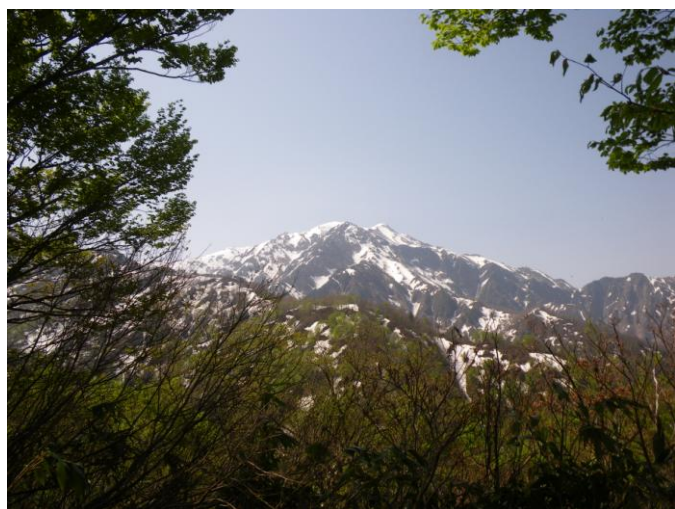
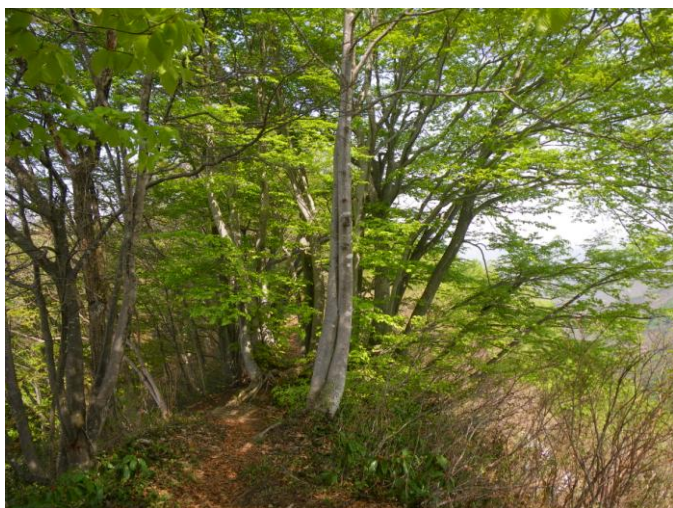
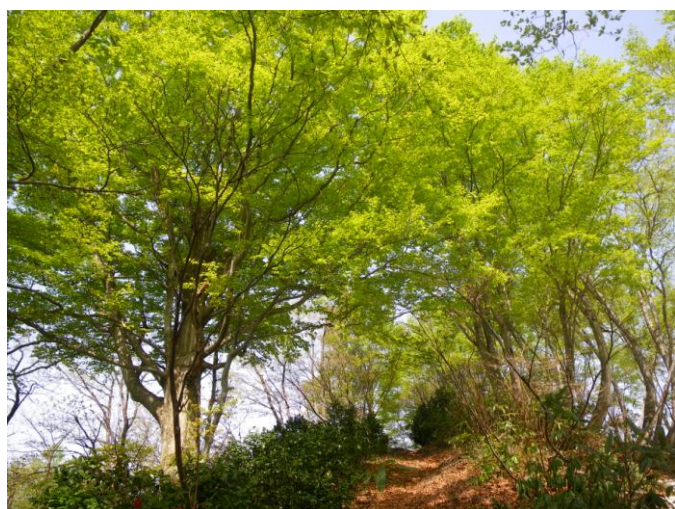
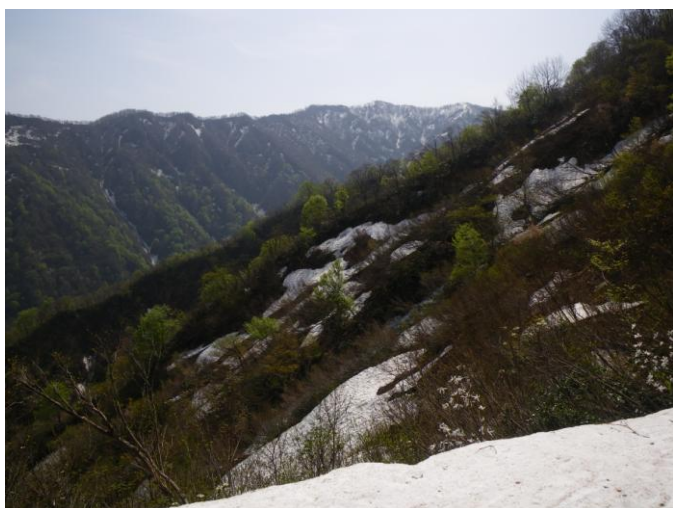


イワウチワが多い。

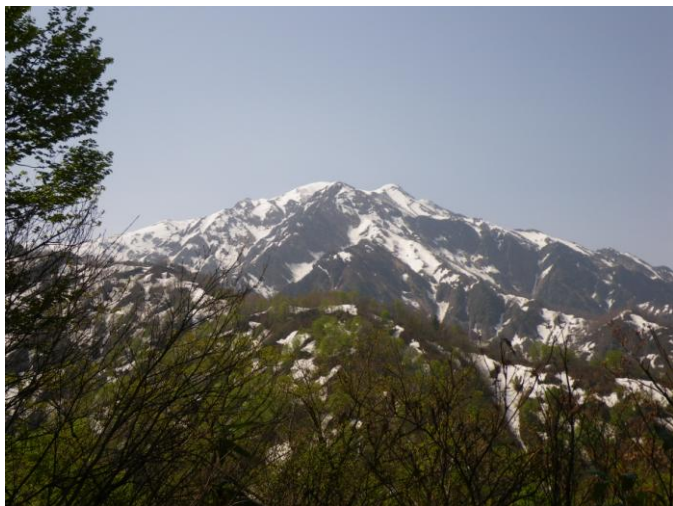




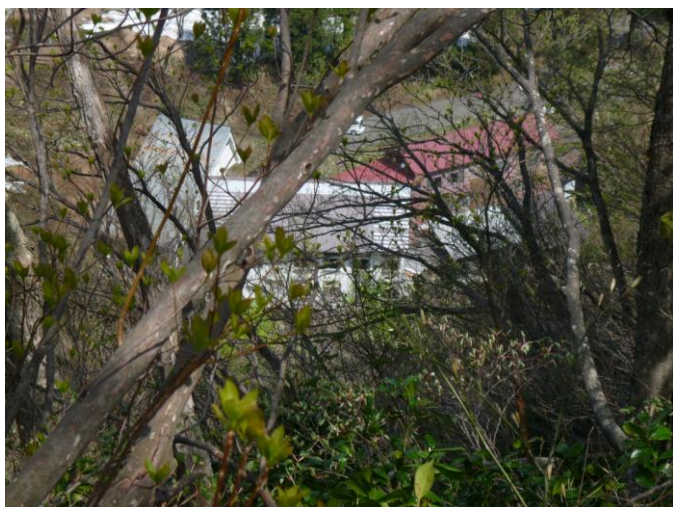
標高が下がり、1000m あたりになると、新緑のブナ林となる。



新緑のブナ林から垣間見る越後駒ヶ岳。



車道の脇にはブナの実林が広がる。



眼下に駒の湯が見えてきた。

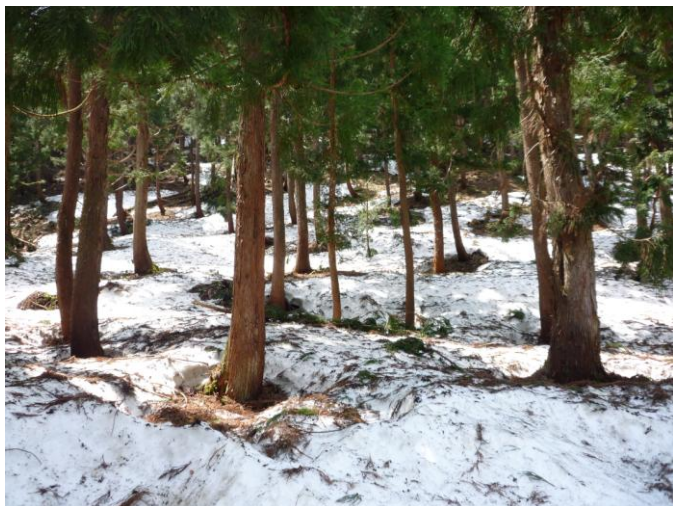


標高 400m でこの雪。



駒の湯に無事到着。ここからは車道歩き。





大湯の温泉街。温泉で汗を流し、バスで小出に向かう。



小出駅のホームから。左端が越後駒ヶ岳、中央の白い山が中ノ岳、右が八海山。



1 時間近く車道を歩いて栃尾又温泉に到着。しかし、日帰り入浴はやっていないということで、大湯へ向かう。残念。